EX（絶滅）

コイ目　コイ科

日本固有亜種

スワモロコ

Gnathopogon elongatus suwae Jordan et Hubbs, 1925
原記載：Jordan, D. S. and C. L. Hubbs. Mem. Carnegie Mus., 10: 93
英　名：Suwa-moroko

［口絵 1-8］

●摘要

長野県諏訪湖固有で、細長い体形を備え、諏訪湖の環境に適応したタモロコ（*G. elongatus*）の亜種である。1960年代に絶滅したと言われる。その原因について、諏訪湖へ移殖されたホンモロコ（*G. carulescens*）との種間競争に敗れたとか、ホンモロコまたは周辺のタモロコとの交雑により純系が消滅したなどの説がある。

●形態

体は紡錘形で、細長く、体高は体長の19～23%、尾柄高は体長の10～12%。最大全長は雌雄とも約120mm。口は亜端位で、口角に１対の口髭があり、その長さは成魚では1.3～4.0mmある。背鰭鰭条数iii＋7、臀鰭鰭条数iii＋5～6、側線鱗数36～39、咽頭歯は２列で3,5-5,3。体側には１本の不明な縦帯とそれを挟む３～５本の暗色線が走る。尾柄高は頭長の45%以下で、胸鰭が長く、体に黒点が多いことでタモロコと区別できる。また、口髭が瞳孔径より長く、喉部が丸く、側線下方に背鰭起点を越えて後方に延びる１～３の暗色線があることによりホンモロコと区別できる。

●分布の概要

長野県諏訪湖固有亜種で、日本の他の水域や国外には分布しない。なお、過去の個体数変動に関する正確な情報は得られていない。

タモロコは関東以西の本州と四国が自然分布域と考えられ、東北地方や九州の一部にも移殖されている。ホンモロコはもともと琵琶湖固有種であったが、各地の湖沼やダム湖に移殖されている。

●生物学的特性

生息域が諏訪湖に限られていたことから、諏訪湖の止水環境に依存した生活環を持っていたと思われる。また、細長い体形や水切りのよい鰭を持つことは、湖の表中層を群泳していたことを予想させる。

●分布域とその動向

模式産地は諏訪市上諏訪で生息域は諏訪湖内に限られ、流入・流出河川など周辺水域には分布しなかった。天竜川水系、千曲川水系、青木湖など長野県下の他の水域には普通のタモロコが分布する。

現在の諏訪湖では湖岸の多くはコクリート護岸され、本亜種の産卵適地は限られる。また、近年、ブラックバスが大繁殖しており、たとえスワモロコ個体群が1960年代以降も存続していたとしても、絶滅は必至であったと予想される。

●特記事項

諏訪湖へのホンモロコの移殖は1935年に愛知県から２次的に行われていたのが最初のようで、すでに1953年には諏訪湖魚類目録に挙げられている。また、「長野県魚貝図鑑」の69ページに「ホンモロコ」として掲載されている図版は、側線下方の体側部の複数の暗色線を備えることより、スワモロコ・タモロコ共通の形質を発現し、ホンモロコとこれらの魚種の間の交雑魚またはその子孫と推定される。